

羣書類從

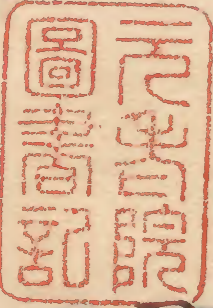
三百八十下

和書門類			
九	五	九	五
二	〇	八	〇
冊	架	函	號

內閣文庫			和書
九	五	九	五
二	〇	八	〇
冊	架	函	號

內閣文庫	
番號	和 9595
冊數	670 (474)
函號	214 39





群書類後卷第三百八十下

合戦部十二

西家記

一名二川系流記
又稱正祿回記

細川西家小成始中興より永正元甲子年より天文

十九庚戌年迄記凡四十七卷の間に一巻小ありその

以後八卷老老不記之れは次と稱之依而中又天文

七年辛亥以来より子孫の書並し

天文七年辛亥二月七日三好元就等長岑又の内流より永

基助方江別志登入り如し今度ハ六角方元湖水と稱之

檢校保己一集

合よ及(き)の中(人)叔少(付)を先(く)折(ゆ)り(進)り(て)

一 同(二)月(十)日(小)於(京)の(勢)州(宿)下(三)之(筑)也(五)と(三)好(筑)前(守)

酒(乃)事(小)公(方)亮(の)進(士)九(部)と(三)人(を)去(り)と(二)刀(突)れ(り)

其(不)苦(小)後(ハ)九(部)ハ(外)生(害)之(京)田(舎)作(天)守(斗)之

以(不)務(より)其(後)付(る)事(中)以(又)中(地)依(不)渡(る)事(以)後

之(勢)州(を)以(以)初(入)魂(時)以(不)及(是)非(也) 甲(子)年(一)月(一)日

一 天文(世)一(年)壬(子)正(月)廿(八)日(小)角(方)亮(と)以(不)務(ハ)入(洛)同

細(川)の(時)元(の)以(曹)司(以)入(洛)之(是)小(角)方(亮)の(以)孫(之)也(也)

と(京)上(る)事(以)以(終)る(以)地(を)之(翌)日(以)交(り)也 一 某

一 同(二)月(廿)日(之)筑(也)丹(波)一(女)陳(之)前(の)小(志)と(三)成(子)城(と)

一 是(美)と(之)物(を)事(以)去(り)亮(の)内(子)也(去)之(播)舞(の)芥(川)孫(平)

和(洛)田(方)亮(小)川(方)亮(一)味(と)以(款)方(亮)上(城)一(中)合(也)去(り)と

一 和(承)運(正)亮(の)付(る)旨(内)後(も)り(と)も(る)事(也)是(也)存(知)也

一 長(安)一(去)事(と)同(二)月(廿)日(之)筑(也)亮(孫)傳(也)亮(法)

一 傳(悉)も(る)事(也)以(引)出(り)り(然)ハ(去)秘(して)以(中)官(也)誠

一 以(入)城(り)三(好)方(亮)斗(之)孫(ハ)謀(叛)人(也)と(去)失

一 以(之)事(也)以(去)事(也)以(去)事(也)以(去)事(也)以(去)事(也)

一 同(二)月(廿)日(時)元(曹)日(七)歲(京)より(名)物(と)以(出)河(舟)と

一 大(物)一(以)下(向)日(方)也(誠)也(以)入(城)也 一 以(去)事(也)

一 同(十)月(廿)日(於)舟(列)黨(白)取(り)時(元)浪(人)亮(と)氏(綱)方(亮)也(傳)

一 希多合戦して内方有て十人討死と因國の國公
 一 同十二月茂川孫千希方の城は長慶の院とて氏鑑へ
 歸来とて

一 天文廿一年癸丑正月廿七日に長慶上京を勢列と美山内侍
 此中とて

一 同十二月十日晴元方元山城を細と云知入安張し長慶元合戦
 して長慶方討勝て首十三人討死と云

一 同三月廿五日より小姓經營と浪家ありとて十人討死法華
 經始とてを國より大勢ありと

一 六月九日備前河生害是八十河民を捕取のつと云也

一 同七月より長慶元茂川城東北方と帯し山陣ありと
 是茂川孫千希依る孫孫之代時河東方父子浪左京亮城
 人質と云と

一 同八月十八日晴元方の浪人元多田埴川方元一味して河田長入
 長打とてとて存分取して別時日備と

一 同八月廿二日に茂川孫千希方兵糧無して電子取て退城
 之別城と長慶元(元史)とて以時の人勢元と云と
 廿五日に長慶元入城之茂川孫千希方の長念持等十人討
 死(元史)とて三好長安方た乃と城の中より之茂孫
 八三長安の妹等と

一 同廿九日小幡元の以曹子とて好孫以希方以侍して職あり
故川城へ出づる

一 同九月三日小幡元の松永兄弟とて丹州出陣之故多勢
占て米厨方城とて美以守備元方北元寺方三好右衛門
左衛門同十八日小幡元とて以元付縁内友侍ありと池田城
内と討死以外救多討死之故母松永兄弟八歳とて其
時之以時内友侍の城丹波八木城領山に松永甚助八内友
備前守等之とて八木城へ入堅固する御とて見
るる所なりとて也

一 同廿二年甲寅四月十日小幡元丹波鞆田郡へ出陣して小城

此とて美以とて別備所へ之松彈洞依中とて

一 五月六日小幡元白山より之に地獄出陣中とて也

一 六月廿八日小幡元元案田郡へ出陣して七月迄備所と

一 六月晦日小幡元社内非人と安見方とて御所移るを

之八月晦日とて此以安見方とて也

一 八月廿九日小幡元有る故入方とて中より三好日向とておとす

接津山元播州へ出陣九月一日小幡元戦ありと三好右打勝

て三木の別所とて此城とて七ヶ倉之故別九月十日備所と

一 同十月十日小幡元長安法橋へ渡陣して洲本とて此兄弟

元阿波乃三好寺前守十川氏初と備一存安宅の接津山

冬康系會もく上乃後内後中風使す同廿八日
に七系又水上活之三人ももまてか打海の中へ

一 同十月二日播磨赤松及とわ内合力河波乃三豊之康内

元先陣と安宅方藤系右京を後海して明石表へ

陣取之同十月三流成り同下と出陣之孫丹年内各

戦をくして戦日とまると明石河内廿四年乙卯十月と

号弘治元

正月十日と三豊之康自か明石表へ出陣と

一 同十月三流成りもか三流名の大山と云知入陣取

りし明石方よりとて懸をくして明石表へ和勝と

一 同五本別下方の陣取をいとしもも孫取と

冬もも孫取二月廿七日と河波成り河内と播磨赤松を播

州へ渡別元を後海へ海と

一 同年九月廿七日と三流の内元中丹波の陣と上陣と

生瀬口より入新取りいとしもも今交は合無と

漸くか打海と

一 弘治二年丙辰正月廿七日と本より夫と上幕星有ん東へ

出西へ先八段の方と云くせももも細川が

植乃と記あり

一 六月十日と三好ももも播磨(後海もも親父同運のしも

一 廿五年壬子初秋同七月十日長安城より美濃
 松原中へ之移し西捨る子白連あも之觀世云
 乃能もろく之初辰令月より廿五日迄と學上人
 一 同二年丁巳八月廿二日始東風吹て後南風吹て
 尾崎所不秘波鳴尾今津細ま兵隊明あり
 上る所不尾崎より六十人流死すと云之仍定置
 八平宮に敷之むしりの浦宮湖の上より八十三年小
 當之依之米賣買令とあす平らり
 一 同十月十二日三館の元又丹波屋上へ出陣して
 落之同四年戊午組二月より永福元之

一 二月三日細川の晴元曹子於坂川城より元服長
 号六部及之
 一 同五月三日河原坂英細川晴元を江村本より坂本
 因茲同廿三日好方元等之同十九日白川表へ
 相跡せり小陽陣之
 一 同六月四日公方元晴元元如之嶽へ陣取
 方比衆捨陣を元利京上しておとす陣取之同
 元晴元元一味して又勝軍山へ陣取之今及
 猛勢して此供の中より也
 一 同九月三日好方よりお出合戦と好切揚て首
 三好

卷三頁八十四

五

と云 蘇州不乃内内之龜井討死の由り

一 同六月廿日之好方より侍伏して勝軍山より出者と三人討

死内より入る粟生と云者八寺町内之云田と云者組討すつと云

と云人徳小牧と云者之是八松山内林源八討死之云又高名

此此新中より知り給中より

一 同廿五日より天上に帯星出七月廿六日以下は掃代の

一 七月十四日京中地子之好方より徳と云中より用捨と云

一 遠礼吾無つと云角方より徳と云中より用捨と云

一 永禄元戊午七月廿六日之好方より康長先陣一子軍討りて

阿別と云之同八月軍京と云厚侍(是是)同平日に足侍(是

同十八日に蘇州(自身より)之荒と云(而後)之則足侍(

以下在蘇州)

一 同八月十九日(不)阿別より三好長満之康長厚侍(同廿日)西

一 同廿日小足侍(是侍之安宅掃侍より)上同廿日之荒と云

一 芥川より足侍(以下)之九月三十日河民部より足侍(三孫

義興も以下各は是云)同六日十民(は)阿別(は)掃と云

一 蘇州(同九月十八日)大阿抄先陣列先掃州先等(境は)

一 蘇州(同廿日)小借野和泉山中打廻り掃侍(玉衆より)掃侍

一 阿別先陣先(境は)是等

一 十一月六日小足侍より蘇州(阿別)之

一 同廿七日、清原孫と之孫長兼山中和賤之六角友の山邊にて
 如也成りて下目録交申之、清原孫、傍軍山より相國寺山城
 へ三流を奉り上陸して山礼申す
 一 同十一月廿日に河内白土の政と安見兵衛との間、報院
 にて高政と安見より、城は山邊にて、孫長兼、山邊にて、孫長兼、
 安見方お候高城堅固と
 一 十二月廿日、清原孫と之孫長兼山中和賤と、同十八日、白土
 一 流石孫長兼より、河内白土の政と安見兵衛との間、報院
 一方境より、孫長兼、河内白土の政と安見兵衛との間、報院
 此の如く、目録交申す

永祿二己未、五月廿二日、清原孫、河内白土の政と安見兵衛との間、報院
 民部吏方、合方申す
 一 同廿九日、清原孫、河内白土の政と安見兵衛との間、報院
 一 討死と云六月廿一日、清原孫、河内白土の政と安見兵衛との間、報院
 一 同六月廿二日、清原孫、河内白土の政と安見兵衛との間、報院
 於十七ヶ所、安見方、河内白土の政と安見兵衛との間、報院
 一 孫長兼、河内白土の政と安見兵衛との間、報院
 一 河内白土の政と安見兵衛との間、報院
 一 河内白土の政と安見兵衛との間、報院
 一 河内白土の政と安見兵衛との間、報院

元と合戦して池田元討勝てらるる首級て世討云
因廿九日よ南河内を連抗合と云如く好方又陸軍と好
安守方の飯盛塚と好方也

一 八月一日に好方元言を城へ押寄て城廻と好方同言

畠山友と紀州より直光 東陽川を結して境津へ入山と好方

一 味と好方入言と

一 同日好方元天皇と諸將らりけられあひま

一 妻の陽守と又相承孫山澤丹元大和守と入言と好方同言

一 次畠山友と好方一味の共細川の成徳と淀の城へ入言

一 淀の安守方の飯盛へ入城と安守方言と好方同言

一 永禄三年庚申正月十五日淀の成徳と好方同言

一 同日正月十六日よ京の河内掾長考と好方同言

一 同日正月廿日よ公方掾義輝と好方同言

一 安守方と好方同息孫成徳と好方同言

一 同日正月廿日よ好方同言

一 同日正月廿日よ好方同言

一 同日正月廿日よ好方同言

一 同日正月廿日よ好方同言

一 同日正月廿日よ好方同言

一 同日正月廿日よ好方同言

三月廿百子河波(下)子孫あり字にのこ

一月廿百子修理定(及)境より十七(及)田(及)小(及)河)

一月廿百子修理定(及)境(及)下(及)田(及)小(及)河)

小(及)河(及)小(及)河) (及)下(及)田(及)小(及)河)

及(及)河(及)小(及)河) (及)下(及)田(及)小(及)河)

一五月中(及)田(及)小(及)河) (及)下(及)田(及)小(及)河)

一好方(及)田(及)小(及)河) (及)下(及)田(及)小(及)河)

一好方(及)田(及)小(及)河) (及)下(及)田(及)小(及)河)

一河(及)小(及)河) (及)下(及)田(及)小(及)河)

一河(及)小(及)河) (及)下(及)田(及)小(及)河)

一河(及)小(及)河) (及)下(及)田(及)小(及)河)

一河(及)小(及)河) (及)下(及)田(及)小(及)河)

一河(及)小(及)河) (及)下(及)田(及)小(及)河)

一七月(及)田(及)小(及)河) (及)下(及)田(及)小(及)河)

一河(及)小(及)河) (及)下(及)田(及)小(及)河)

一河(及)小(及)河) (及)下(及)田(及)小(及)河)

一河(及)小(及)河) (及)下(及)田(及)小(及)河)

一河(及)小(及)河) (及)下(及)田(及)小(及)河)

一河(及)小(及)河) (及)下(及)田(及)小(及)河)

一河(及)小(及)河) (及)下(及)田(及)小(及)河)

一河(及)小(及)河) (及)下(及)田(及)小(及)河)

一 同十八日、伯耆の橋の坊退城也、
 一 同廿一日、同、同日の夜、城墮り、退城也、
 一 永徳、二年、辛酉、二月廿九日、津、西條、義禪、之好方、所成、
 一 今及、長安、修理、大、同、息、流、希、
 一 相、下、山、相、信、元、
 一 同、五月、日、細、川、の、晴、元、入、
 一 同、七月、廿、日、
 一 同、八月、廿、日、

一 同、五月、日、細、川、の、晴、元、入、
 一 同、七月、廿、日、
 一 同、八月、廿、日、

一 同、八月、廿、日、
 一 同、九月、廿、日、
 一 同、十月、廿、日、

一 如斯の時、好方、
 一 永霜、
 一 迎、
 一 和泉、
 一 三好、

卷三十一

十一

高倉の城乃阿比元打出泉列表一降其款味方の間五
町二町よりなるにけりも免角して奉書也

一明正永禄五年壬戌二月五日小三好実休の陣石和泉久米

田と云ぬ之物系小島山の高政根来元安元元お後一係打

出る阿岐勢も二手になり根来元安元安作事一所より

左より妙子藤原右系元大將も切をりも教刻秀戦而下

根来元元切有て引退志す事其紀州乃元陽川方相するに

あつらふりふと好山城も同少勢も同使中も之を徳宗是

とらんて款作一月より切うりては小大為実休の旗本よりハ

終百騎少上はに相りしは其実休思持るも之を是れハ

旗とをぬりけりしは山乃高政も之を是れと下給

透首も之を是れと相するも一戦も及ばぬも実休乃

運やとては之れより被けしは一是と不遠討死也

是と見ては場より之を祝致若黨世傳人同統討死也

大將也けの上も款と切取既に勝軍仕り法軍も敗軍人録

能島山才元も根来も元も三好も元引退と見ては討死

慕る者も有りしは不忠後小三好も元有りて二百

餘不討死とて云ぬハ阿別元も横列元も後列元も先ん敵

とて一掃出りしは其城も明退之は之を政入城之は之

岸和田城安宅持時も指詰る矣依堅固之智はお抱後

一 兎少或て退城之
 一 阪上城より三好修輝を及指勢望固りて然も安見は他守
 根来より一味して三月中より退陣を命ぜらるるに城内
 秘儀の内風を絶つて固御持守を元とす後とて為後志先陣に
 二好山城を康長同率五月劫りてと上洛す安宅御持守
 御持國よりハ元前より日向同之助同少種より同途中も松永
 孫正忠御列乃元素一味同よりて後近川と後越と五月
 安見河内乃教無寺と云知小記列乃後川乃根来寺御持
 河内切懸合戦も三好方切勝て六百余人討死す
 陣乃得湯^{直光}御持討死する事ハ城元ちりりて成行の版堅

城素元安見方根来も元は中と交列ちりりて成行の
 安見方ハ大坂ハ入中の富山の政なる為城より又城持ハ
 出入乃中の只一日より河内和泉大和山城御持も今國三好是ハ
 御運示成行も亦代志未より中より版堅の長巻又運示も元
 三好も又交中より言を城ハ河内元三好山城も元持取
 中ハ也
 一 河内六角元は時之務軍少少在保つた其は時無是後河内
 一 孫良三宅安御持も元と記昌也方ハ一味しては中よりとて同
 五月廿日ハ御列も修輝約十里斗放火せりりて是ハ其は成行
 河内河吹高より河内謀也の信入る事ハ



一永祿六年癸亥三月丁未細川晴元入京一清と申すは於橋
別富田香門寺に地蔵也

一三月廿一日に池田山城を同勘右軍討つ同内瑞とて之を
一四月一日小雷電して東北寺塔(落て塔焼く)

一八月廿一日三好元就義興歎息して蘇州城にて死去す

一九月廿一日小松宮の由邊(定)法園(素)一語(入)事之

一十月十二日根島元と三好方利侯於泉別業云

一十二月廿一日細川の氏綱歎息して於後城に地蔵也

一永祿七年甲子五月九日小安宅橋冬康多事於飯盛城に於て

松永之秀乃渡云とて也中々小籠籠也其文以也然歎息の如也

由歎息して七月甲子に死去す之物其号上頼元乃時云
攝の宗徳宗之五年以後永祿九年丙寅六月廿一日

葬礼河内山崎と云々

一十二月廿一日藤原右京亮上洛して三好方家中候

に相調して利下也

一十二月廿一日細川左京の形為に修理料持長山下(控別)に於

然りて二好稀るる事以八進藤と申す相承る友助也

人之武庫川に於て二月廿一日也

一永祿八年乙丑尚代宗の公方頼義輝と申す天下に元也と云

如妙子阿波守の沖西様より連く三好方(其)信上候と云

今号三人元と相承ね基中悪安成て三人元出馬之
一左京義次安成と武器とて三人元一和歌中飯盛より高麗人
八城と河列元三好山城康長より一速回りの

一永禄九年丙寅二月十日小島山言政衆列由元根島より元
元相承つて多門城と一味つて多勢七子金騎境南水
遠置小姓と云伝説中より云

一因二月十日小松永方北城搦兵難ち多志山と三好の三人元
方後列十人元安宅方と争つて多勢を合戦より多志
山元負付死首十安宅方一討死云

一因十三日に畠山の言政同安成兵作多志列乃由元根島より

元一呼びて河内喜入打廻之強ひ三好方も言を城より打出
鉄砲つと争つて双方打ち合ふ

一因十七日に三好方高麗城より左京安成兵始て四回元元を
外徳勢を万三子半打出城際へ押しこめりては元言政

安成城より打出衆列元の家来より元出上志と云知て合
戦を河内道の口も畠山方切腹て三好方一打ち首数三百

六と河内を獲り畠山も安成兵死すも境中人出入り
果て果中と和泉兵元討死して三好元母和泉(三好)

中を獲りて後十八日中に三好方一城果中三好方を
境を打入中守の中上云

一以時三好方一討其首領文次事不同

左京左大臣法光兵衛十四三好向別手名七

五成親手名十四 春成親手名七

如地檢助手名七 春成親手名七

宗良孫六手名七 春成親手名七

金山駿河守手名三 春成親手名七

中村形左衛門手名七 春成親手名七

以上百拾貳 春成親手名七

十河子松丸手名四 三好種別手名三

三好山城守將手名四 三好百手名七

於合三百六之中也

一松山守千原方を逐乃事松永方と味にて芥川へ入城

此と三好方三人元三好山城守松永後且子記信文書之

左京左大臣と御系既小尾信三手名八又伊丹方也

松永後之傳子傳小尾とて祝言也松永方一記立

傳之傳乃其善家の玉此會學上の人々中之種ハ於

尾信子人較五百斗お傳て已二月十七日小中傳と出陣

之船小川の口境信口合我松永方島山方安見方和別

元弘四年三月中傳子松永の十八日中傳と事

長列一松永と其合處中傳記信文乃當對其

徳入中同也小伊丹（以下）列解の（中）風使（之）
 一松山安藤（中）中村形（中）中村（中）一（中）以（中）記（中）清（中）三（中）好（中）方（中）下（中）今（中）上（中）
 一（中）お（中）遠（中）ま（中）る（中）が（中）中（中）し（中）て（中）左（中）京（中）安（中）成（中）（中）新（中）年（中）の（中）心（中）村（中）妙（中）中（中）子（中）の（中）
 一丹（中）別（中）屋（中）上（中）城（中）小（中）松（中）永（中）孫（中）の（中）甥（中）松（中）永（中）孫（中）の（中）人（中）入（中）城（中）の（中）事（中）
 一（中）飯（中）多（中）神（中）方（中）衆（中）の（中）家（中）の（中）城（中）之（中）と（中）も（中）我（中）是（中）新（中）美（中）既（中）水（中）乃（中）は（中）遠（中）海（中）の（中）
 一（中）糸（中）粉（中）飯（中）乃（中）は（中）日（中）三（中）本（中）此（中）別（中）所（中）方（中）唯（中）日（中）て（中）遠（中）海（中）之（中）日（中）月（中）其（中）
 一（中）日（中）之（中）尾（中）崎（中）大（中）物（中）乃（中）場（中）人（中）入（中）之（中）以（中）は（中）小（中）松（中）永（中）孫（中）の（中）後（中）海（中）山（中）之（中）
 一（中）五（中）月（中）十（中）九（中）日（中）小（中）松（中）永（中）孫（中）の（中）家（中）の（中）城（中）之（中）事（中）も（中）も（中）も（中）も（中）和（中）列（中）多（中）門（中）城（中）を（中）
 一（中）出（中）掛（中）州（中）中（中）橋（中）村（中）田（中）と（中）も（中）如（中）し（中）陳（中）兵（中）因（中）也（中）言（中）り（中）河（中）内（中）橋（中）津（中）城（中）
 一（中）表（中）連（中）と（中）も（中）如（中）し（中）陳（中）兵（中）の（中）事（中）も（中）も（中）も（中）も（中）い（中）ら（中）る（中）る（中）り（中）出（中）身（中）の（中）事（中）も（中）も（中）

一（中）兵（中）中（中）の（中）事（中）も（中）も（中）も（中）も（中）又（中）世（中）之（中）事（中）も（中）も（中）も（中）も（中）城（中）南（中）山（中）之（中）事（中）も（中）も（中）入（中）高（中）
 一（中）政（中）同（中）安（中）見（中）方（中）勢（中）と（中）も（中）集（中）り（中）徳（中）の（中）松（中）永（中）方（中）の（中）城（中）之（中）事（中）も（中）も（中）多（中）事（中）
 一（中）山（中）の（中）城（中）元（中）統（中）水（中）元（中）伊（中）丹（中）元（中）松（中）山（中）之（中）事（中）も（中）も（中）布（中）方（中）城（中）之（中）後（中）海（中）山（中）集（中）
 一（中）勢（中）之（中）子（中）金（中）勢（中）と（中）も（中）風（中）使（中）の（中）事（中）も（中）も（中）も（中）も（中）玉（中）蓮（中）社（中）の（中）
 一（中）陳（中）兵（中）之（中）事（中）も（中）も（中）
 一（中）同（中）五（中）月（中）廿（中）二（中）日（中）之（中）事（中）も（中）も（中）也（中）に（中）當（中）時（中）在（中）陳（中）兵（中）三（中）好（中）左（中）京（中）安（中）成（中）と（中）始（中）て（中）
 一（中）三（中）好（中）山（中）城（中）之（中）事（中）も（中）も（中）三（中）好（中）日（中）向（中）也（中）三（中）好（中）下（中）神（中）也（中）名（中）城（中）之（中）事（中）も（中）も（中）親（中）助（中）三（中）好（中）備（中）
 一（中）中（中）之（中）同（中）久（中）助（中）同（中）常（中）刀（中）左（中）馬（中）の（中）加（中）比（中）檀（中）助（中）子（中）垣（中）田（中）宗（中）女（中）山（中）藤（中）原（中）
 一（中）玄（中）蕃（中）元（中）加（中）比（中）之（中）事（中）も（中）も（中）糸（中）矢（中）野（中）伯（中）耆（中）也（中）吉（中）成（中）勘（中）兵（中）松（中）山（中）安（中）成（中）也（中）
 一（中）中（中）村（中）形（中）之（中）事（中）も（中）も（中）中（中）村（中）形（中）之（中）事（中）も（中）も（中）西（中）元（中）十（中）八（中）元（中）橋（中）津（中）上（中）下（中）の（中）西（中）元（中）持（中）了（中）

比田勝政ハ今度甥此合我者安申て比田八人殺少御を
 甥ハ殺御子人々感々好方徳勢一万五子斗と
 之上申て付人殺境乃一押之今度一噴乳子之出之
 之及一戦之及之使者之令之何之方も之勢も殺付して
 不之出今之東南此合元噴して之政も其勢も甥
 之恐入申て之強之六月朔日之好方元東南此打入
 申て之不及一戦理運子之松永方多之元城水元伊丹元
 甥ハ之殺らるるも之氏成り来也之に船は之元之城之
 之打向之同松山彦平希も之打之打向の中也
 一今度之好方比田勝政ハ境合我理運して八月二日浦原の

一 比伊丹領内焼死して申申也
 一 世上此成行り具阿列河原孫年東山入洛申て後
 一 之打付也人々之強之六月申之強路之り之之慶一
 一 上之甲之と之強之先陳して之藤原右京之長房
 一 二万五子之六月十日兵庫之孫孫列松永方多之山城と
 一 淡別り十人元之末此別所方元之右方元衣蓋方此元之
 一 方元之強之と之強之也
 一 同日六月廿二日藤原右京之長房ハ城水城之是之長
 一 房ハ西宮中之陣之西方ハ蓮華島山之方ハ山之方
 一 之廣田中村津戸九十九町之末今之何之尾山之陣之云

を勢二万石を斗まゝに中風使之電に城七月十日に退城
し之を城元時同右を東河系東三河を此田丹後守溪
城迄富田ありと日とせりお抱之と人あり場三好日向
送送入申也

一 同寅六月廿日故修理長政の葬終焉に死去二十一年日

一 同日松永方山城元時院小泉城三好方(明後)に

一 同日松永方院の城南を覆代多羅尾方退城也

一 同日松永方勝竜寺乃城明後

一 同七月十七日藤系方徳勝寺あり陣營之尾崎あり藤波

東福源田長列東西河江部光寺抗激陣あり

一 一津細川一家乃典既及藤賢中傳の城と云知し此五城は相繼ぎて

退城するは難む付しとて大坂院敷より電りて同八月十

日官に退城之大坂へ之好日向守送る

一 一羽布引の滝山六波列元掃抄元清等て以美山既水の事

とらるゝ案發付しして同八月十日退城也

一 九月廿日伊丹大和守之好方一味と城也

一 同日廿日小阿波公義榮方極城水城へありて同十月七日小富田

一 庄寺門寺へ流るゝと云也

一 同日十二月日藤右城水城へ入之此方は勢向くしと云

一 永禄十丁卯年二月十日官之好左京之吏及堺津子あり

三人元乃宗と隠忍山左枝本町本邸（山左宿舎）にて同廿二日
 に又相水方（山左）の中へ進出令山左河も亦りの中風使と
 一同廿二日早左系より更次を基壇津と知信寺の城へ打
 越えより山城へ打出焼回り同廿三日多門城へ打入申
 同廿三日三人元と宗と初と暮宗より打立をく陸口相親
 宗等相合と申す也

一同十月十日宗等小三人元陣本町本邸（多門元相親）にて打
 破中村形と申すと云へりあうり元因元大滞敵と焼敵と風使
 也此より相親田邊政陣本町本邸に打立に三人元より相親
 此より又云へり（陸口相親）

一松山寺十帛松浦疎云等於宗良陣本無福寺三人元（一昧
 此相子松山安藝も吾小松安藝内中）にて三後して多門（一）
 此相親三人元より破敵陣内味方元居家内（入敷如之
 別安藝も）と云へり此より相親打立り同廿五日城
 （退之味方にりあうり知信寺相親）

一同十月日細川後列の山曹子と好彦次弟を城よりと城へ
 山左宿舎也
 一同十月日伏見の津田相水方（一昧）にて多門より加勢と申す
 一永禄十（戊辰年正月日）三好在系宗より多門城より津田城へ
 出入り也



一 松永方信貴城興厩若賢山城城、桑高屋より三好
 一 山城守洞儀より桑高通海より大坂院より電光
 一 退城之太坂へ送り給ふ、六月廿九日城守を元(信長)
 一 八月日御所縁一宗院殿と誠教敦吉より長徳(山城)頼春
 一 桑高より山城守の織田上総(信長)城守より桑高城より徳丸
 一 中(山城)同(山城)を江(山城)の取(山城)と誠海井より一(山城)より長徳(山城)と風使(山城)
 一 同日廿二日好方三入元江(山城)列(山城)と誠六角方忠(山城)後(山城)中(山城)
 一 同日九月日一宗院殿山城守織田上総(山城)城守江(山城)列(山城)山城守長井方と
 一 相候一(山城)より同日桑高那六角方(山城)切(山城)知(山城)上(山城)彼(山城)方(山城)元(山城)三(山城)平(山城)
 一 一宗院殿(山城)桑高(山城)六角方(山城)頼春(山城)より利(山城)伊(山城)守(山城)元(山城)列(山城)退(山城)之(山城)
 一 城(山城)江(山城)列(山城)と切(山城)一(山城)宗院殿(山城)山城守(山城)利(山城)吉(山城)入(山城)洛(山城)より山城守(山城)元(山城)三(山城)平(山城)より
 一 三好(山城)元(山城)三(山城)平(山城)方(山城)石(山城)成(山城)より統(山城)政(山城)山城守(山城)元(山城)三(山城)平(山城)より山城守(山城)元(山城)三(山城)平(山城)より
 一 城(山城)山城守(山城)利(山城)吉(山城)入(山城)洛(山城)より山城守(山城)元(山城)三(山城)平(山城)より山城守(山城)元(山城)三(山城)平(山城)より
 一 電(山城)光(山城)より山城守(山城)元(山城)三(山城)平(山城)より山城守(山城)元(山城)三(山城)平(山城)より
 一 接(山城)以(山城)伊(山城)丹(山城)より一(山城)宗院殿(山城)山城守(山城)元(山城)三(山城)平(山城)より山城守(山城)元(山城)三(山城)平(山城)より
 一 丹(山城)高(山城)石(山城)成(山城)三(山城)万(山城)石(山城)給(山城)以(山城)時(山城)より山城守(山城)元(山城)三(山城)平(山城)より山城守(山城)元(山城)三(山城)平(山城)より
 一 丹(山城)廿(山城)九(山城)日(山城)山城守(山城)元(山城)三(山城)平(山城)より山城守(山城)元(山城)三(山城)平(山城)より山城守(山城)元(山城)三(山城)平(山城)より
 一 登(山城)城(山城)同(山城)言(山城)る(山城)城(山城)守(山城)元(山城)三(山城)平(山城)より山城守(山城)元(山城)三(山城)平(山城)より山城守(山城)元(山城)三(山城)平(山城)より
 一 同日九月廿二日山城守(山城)元(山城)三(山城)平(山城)より山城守(山城)元(山城)三(山城)平(山城)より山城守(山城)元(山城)三(山城)平(山城)より
 一 城(山城)乃(山城)用(山城)より切(山城)て(山城)上(山城)十(山城)日(山城)入(山城)討(山城)を(山城)お(山城)し(山城)多(山城)負(山城)救(山城)百(山城)人(山城)を(山城)中(山城)

一 寺の好電に成初り二万石揚之御所極へ寄来り給へ
一 上那言概乃入江言落木才も山極へ与来り上吉一國
要略

細川掃部

実休子息

一 十月一日子河原公方極濃列の曹子極三好彦千代等々
藤原右系を調候して河原へ先く山下向

信長ナリ

一 今度東山元探別入之時大勢山崎等々居来り礼始
之中山崎外中野山等々山崎破の寺々吉不之に終
續し課大坂より子費系出々中々

一 坂南山へ二万費多揚らねと知れ能引城極上
上野とあり山の事は極上りる者多揚らねと知れ中々

一 當時一宗院及も信長が成り一宮山極の好左系及
霜野也山極極長へ芥川城とて水揚り中々此地
左系及へは河内中津之跡中園の事山及へ後中津之
西村系へは和切元次と申の探別を和国方伊丹方池田方へ
之中風使り也

一 和永方へ尾張元二万牛和永大和へ多揚り別前井平城
との事同又井平城へ多揚り中々此の事分る事あり
切之出あり討死も負ふ事と云然ハ是月之候日
云先く京へ引中々此の事あり中々

一 一宗院及も山崎三入洛當時細川及の屋敷より中々

一十月廿二日一書院及山内主義秋一書院中此伊丹
之座以古山内國之池田前後其山内之役

一十月廿三日一書院及山内主義秋一書院中此伊丹
之座以古山内國之池田前後其山内之役

一十月廿四日一書院及山内主義秋一書院中此伊丹
之座以古山内國之池田前後其山内之役

一十月廿五日一書院及山内主義秋一書院中此伊丹
之座以古山内國之池田前後其山内之役

一十月廿六日一書院及山内主義秋一書院中此伊丹
之座以古山内國之池田前後其山内之役

惟政之也

永祿十一

十月廿四日 義秋

伊父織田孫山忠啟

同又

依今度大忠致桐葉引兩筋卷之延之史武功一
統儀也

永祿十一

十月廿四日

義秋

織田孫山忠啟

一十月廿六日一書院及山内主義秋一書院中此伊丹
之座以古山内國之池田前後其山内之役

一今交河列記を云下云して教く小坂云々には居孫元元
 之好山城也三好日向三好下神也名成主祝助三好侍
 中三好三好久助矣此他者也吉成勘助藤原玄蕃元
 如地持助堀田宗女正松山彦中希氏人々は此後既戊辰
 十一月十三日三好三好三好お定、お定に後長元安宅方を始
 て藤原右京を云へ依り御記に元中系お網後別元一
 味して三好中々て延引也

一其心好後路元お除ておお後同庚土月廿日、徳勢僅出
 張之先、家上和泉の家系と云城子三好左京史成之入校
 指藤原軍の是道下山城をて攻めて易に是と日、既小

美濃と白斗首討たると云城之寺町左之史崔部治云未厨
 有人を後切ると云城居居之史、此永禄十二己巳正月
 二日之集勢一万斗とて打出と日、此海内之出口中城と云
 河子陣之旨、山城の二と云城陣之旨、在福道陣之
 之五日、今神守孫の史、此と云、本史守、此を云とて
 別、家上之史入破、此史、此後、乃、百、京、中、も、出、の、日、
 此、不、孫、史、を、登、と、云、此、史、史、院、史、史、中、史、を、に、付、て
 七、条、乃、場、へ、此、退、也

公方孫也此史、此後、と、京、今、此、不、孫、乃、持、別、乃、伊、丹、方、此、田
 方、此、お、後、同、己、未、に、此、史、と、云、乃、子、史、史、入、江、乃、三、好

方一味して本海乃ち塞るるをその小曾^郡於山に陣を布
く山嶽より日向日向の矢射れ乃ちあへる

一同西亦乃ち好左兼主及先陣して早桂川南よりいへる
一同二日よ河列元は中野入付て日向より押寄り六条への手前

く山嶽より成主親政を河波元桂川より下り河川を渡
戦之好左兼主及池田元と海合河原元対勝左兼主及元

池田元茂為の山隈へ追上るる戦者明て其を池田元池田
城へ引退の中也

一伊丹元と河波元と合戦して上下八十人半討死すとの事
軍してよき相違と追討する勝義寺の城へ入陣元伊丹元勝

利とゆらう中野之河列元と陣をとり退くは情状
兄本情敵をしく有に助りしは合戦双方八百人死す

とす

一月廿六日合戦の程後中野を振り信長は河原をまけ
其の身自身攻撃り回するる事なきは信長はより又右方斗

一東下りの中
一此時信長より境南山へ使者を遣せ今度河原元城より僅
ひて出陣りる曲るの中より無の事敵中より東南元城後

よりて是弱荷相お振東松川橋尾より隠し運りし
風波之河列元是下國の中怒りて信長守りくは三人

礼乃教を改めんと欲すは御之

一 同日より二条武陽院乃其の山城攝と東山にりけ城とありて此となくして河内となくして公方保山入城之徳侍礼自身善信也

一 大内掃部忠興の造るる中

一 信長成敗乃其の徳園を以ては東嶺人悦ぶり

一 物置渡乃其の徳と信長と其の調書其の米をり

一 同日二月廿八日尾張元三子入平尾張へ其の御書をりて

一 別所正徳其の同日自其の尾張元と信長と其の尾張元尚生

其の有りて其の大人討死す其の尾張元入其の男女

三十人申付其の町は男と志取火と長き其の尾張元其の残り

一 信長同日廿九日其の東より其の濃へ其の静也

一 高槻乃其の江方云其の月其の合戦乃其の地二好力一味也

一 又信長一院之其の京之其の生害之其の元其の事也

一 同日八月一日小尾張元其の其の伊丹元此田元一味也

一 但子其の其の利運して利同十三日其の御也

一 同日八月末つて信長其の其の勢其の勢其の勢其の伊勢

一 其の其の合戦其の難其の其の軍其の國其の勝利也

一 同日其の同十月十日信長其の其の陣乃其の其の入其の其の事也

一 同十月廿五日伊丹元池田元和田元と河内極力を相討別
 一 為水合カ搦別一カ勢方後出でて陣立てて浦上内藤成
 一 城攻落別等々此打廻之城を討死す

一 永祿十一庚戌辰九月未つて尾張玉藏田原凶忠信長と
 一 公人五万騎借素良一秀隆及河内信中河内極力成戸
 一 とて歩立上りて各々徳志す(中)小徳ハ五畿内押成して
 一 を追てり具河内成内玉元信成以成之と元龜元年庚午
 一 遠妻乃以より河内大勝瑞々云如く行て此後也
 一 去年己巳正月二十三日元斗上つて桂川乃合戦大和
 一 此の事ハ人カ陣取らば此等々も軍取来以人殺り

一 小成既チ原不成出つて度攻上り小ハ先チ之程
 一 楯籠中ハ或ハ幸ハ乃カ搦取れ中傳乃内野田福徳
 一 中ハ先取ハ大海之流流口由へ舟通路自中ハ山南東
 一 方ハ渡川ナ地より千里北由よりハ沼田之是極るにハ稀る
 一 魚ハ多クハ多クハ其味ハ秋乃其味ハ其味ハ其味
 一 抄云

一 信長ハ一味乃搦取池田元池田元徳政と同名内元一味
 一 遠水月す之程ハ元龜元年庚午年六月十八日池田勝政と同名是
 一 後同日用防者二人有生害とを勝政ハ之をたりお取池田同
 一 名元一味同ハ河内之使者と下之南城如行取行上ハ

四方へ一味下りしは果不此上流後多侍中注進之者大坂
 へも信長より之を秘訣にす是果是も河原の因後の中風受
 へ旁へ河原大受と申之能ハ先流列へお戦安宅方お個
 一味して今年ハ和泉(難波)へも渡海之と云ハ先流元を
 細川六兵衛因典既但此身不同三好義隆及の名代三好
 山城入乃美岩麻因息徳之又三人元と申ハ三好日向入乃
 北條因息之厚如三好中將も因息因合身の爲之入道之成
 主祝女是と三人元と申ハ三好治中少輔三好備中も三好常
 乃左之好久也松山彦十郎因合身伊以藤原玄蕃以加
 比槍成境田若狭守造元市原之舟泊者も年木勘右之

二本判之更紀州といひ孫市将又濃波十河方都合之勢一
 万三子と風也

一 同七月廿七日右人殺持名中將も海軍に陣之河原も如
 一定時回福徳子移り堀と有り此と付糧と上之を河海を
 西子乱株逆茂木引以てある一は猶毫之東出勢は如侍也
 一 此之流は昔二百八十七年あり源判官守家此退
 治乃と紀河原を以て是より此船よりして室西國に
 西利運不成也
 一 實者河原元と云ハ信長も信長と紀河原守信長も
 之を合之討ハ河原元と云ハ何の河原も不核

時日刻出合一我... 尾張此信... 能う... 中風...

一回七月廿九日... 此之兵庫...

一回八月十三日... 伊丹... 伊丹... 伊丹...

一回十七日... 伊丹... 伊丹... 伊丹... 伊丹...

一回八月廿四日... 伊丹... 伊丹... 伊丹... 伊丹...

一信書... 伊丹... 伊丹... 伊丹...

伊丹守茂未仕渡り池田新居守伊丹守康以塩川守馬
島守和泉乃小尻守の案此勢中時此因守海邊へ志す
陳兵中々

一因八月廿日之好下時守の舎身為之入乃八信長一味一々
此田より出津不極へ来中々

一因九月之三日好日向守自息之康也此田より出福徳入城
中々

一因曾子揚以之本別不孫有乃百五十斗もて尾崎より出信長
一味もて上王寺へ出城中々

一因日根来守元子入斗もて信長へ出陳中々此也

一因日に紀州畠山方本湯川あ人名代一子斗は信
長一味もて上王寺へ陳兵中々此也

一因日映之津不孫来守も下向後中津乃内城へ中へ
典既若質の山賊(山動身之津所)の山勢元二子斗と

中へ此は信長より集勢元二万人もて中風使之
一因七日之信長も上より中津天浦へ陳勢之也其津も

津も奪不取火中へ然る中へ陳兵と戦もて先陳
兵ハ敵近海若江堤田中へ陳兵戦へ終へ

一因十景典既城乃本中津川へ船橋をせしめり後々七十
一率以るに畠山尾張守海軍守城より出掛入の時

天王寺へ陳兵之時後遠州長柄橋を以て争ひし事
 不給す高倉乃城へ陳兵しつる中へ傳名吉北中へ是
 一萬の中に神田福徳人押を大攻りし事風吹し
 一神田福徳山元後合し大信長勢五六万あり其南嶽
 一慶長より一萬一萬の軍あり其城戸より亦一
 出する事運弱くして日較差るなり其東山元長陳ハ
 叶浦一か万一と物よ攻めし其戸口屢攻めて其窓
 左右亦して運之と圍之不出一日より二日切て其る事
 其る事不尋常此々々々地多之逃りけし其海河を
 其る事死之身と給る事其命を以て其事なれり

因九月十日信長勢元福徳境へ至り其時城方若菜
 此元後砲軍仕りけ信長の武者首を討りて城内へ
 兵入申之

一因九月十日中條乃内浦江より西子古城の浦に孫兵入
 城之此不承年細川常植高國出軍人の後備兵出河下向
 此内浦上掃討の形より同少中條備兵掃討兵作す不
 得三万騎より上格の時常植此城より其意を以て内浦上
 方勢より天王寺本陣難攻今又上野原新戸後遠州村
 陳兵之時後遠州福徳河二頓に橋を以て其より其
 其より河渡後乃之好敵之此元の陳兵は信長を孫子

勝田幸室小冊並書信達一此に據る日其意を合ふり
 御下小捕其布衣及浦上掃部下付く心遣い恨之子細
 ちく歌方阿波玉隈列へ其信達を桑浦上承元後軍
 一 堀八浦上子信村也後切之而くをて付記すもあつて病
 死するも二子余人と云壯里河へ入て死する人女子入堂
 云以上七子入と云記すく之未だ及遠東と云くは中
 道乃中之以公享祿四年六月官之尚遠四年成是

一 典既と信長が西不操山を承りし陳兵中へ信誓を歎道
 堀田乃中に陳兵すけし事しすくは歎道方の百三町年を
 中へ

一 堀田福徳一途以降も大坂へて其意然く申風事と
 一 大坂内信長と堀田福徳との言はる事其下名書人其方一
 又其出書くく列大坂乃其意する事しすくは其何なり
 ある堅固乃時只今と云くして其申すも同九月上名長承
 小名内乃種撞く事く人即人枚集り信長方作て之
 一 同九月十日未だ其より其持物も其意之像其風事て西海
 一 一より其信水吹上淀川運下流く其其出元人其を
 一 出上河端乃境を其と切りぬる肉入く其信長方其疎
 一 願其意つり難後不其申其大兩り其其速感乃申

一 同九月十日小信長が... 磯橋田の中... 小信長より...
 一 同十月十七日... 磯橋田の中... 小信長より...
 一 同十月廿一日... 磯橋田の中... 小信長より...
 一 同十月廿二日... 磯橋田の中... 小信長より...
 一 同十月廿三日... 磯橋田の中... 小信長より...
 一 同十月廿四日... 磯橋田の中... 小信長より...
 一 同十月廿五日... 磯橋田の中... 小信長より...
 一 同十月廿六日... 磯橋田の中... 小信長より...
 一 同十月廿七日... 磯橋田の中... 小信長より...
 一 同十月廿八日... 磯橋田の中... 小信長より...
 一 同十月廿九日... 磯橋田の中... 小信長より...
 一 同十月三十日... 磯橋田の中... 小信長より...

一 同九月廿一日... 磯橋田の中... 小信長より...
 一 同九月廿二日... 磯橋田の中... 小信長より...
 一 同九月廿三日... 磯橋田の中... 小信長より...
 一 同九月廿四日... 磯橋田の中... 小信長より...
 一 同九月廿五日... 磯橋田の中... 小信長より...
 一 同九月廿六日... 磯橋田の中... 小信長より...
 一 同九月廿七日... 磯橋田の中... 小信長より...
 一 同九月廿八日... 磯橋田の中... 小信長より...
 一 同九月廿九日... 磯橋田の中... 小信長より...
 一 同九月三十日... 磯橋田の中... 小信長より...

昔大明國項羽高祖乃戰如斯也

元龜四年癸酉三月永日

春梳書之長老生九十二歲

右細川兩家記以一本授合了



羣書類從卷三百八十一下



